

2014 年度 小委員会活動成果報告

(2015 年 3 月 12 日作成)

小委員会名	農村環境共生小委員会	主 査 名：藤沢直樹 就任年月：2014 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	農村計画委員会	委員長名：岡田知子
設 置 期 間	2014 年 4 月 ～ 2018 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>農村をとりまく環境において、生き物・野生鳥獣との緊張的共生関係について、具体的な事例等に基づきながら検討し、その関係の構築の在り方を明示していくことを目的とする。</p> <p>2014 年度：農山村地域を取り巻く野生鳥獣の有益・無益な環境側面の整理 2015 年度：「自然共生農村計画・空間デザイン論」の骨子（案）の検討 2016 年度：野生動物と共生した農村空間デザイン論への発展議論 2017 年度：「(仮)自然共生農村計画・農村空間デザイン論」冊子とりまとめ</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有	
	<p>主査：藤沢直樹 (日本大学生物資源科学部) 幹事：北澤大祐 (地域環境資源センター) 委員：山崎義人 (兵庫県立大学自然・環境化学研究所) ：山口忠志 (練馬まちづくりセンター) ：川口友子 (農村開発企画委員会) ：根来宏典 (根来宏典建築研究所) ：關 正貴 (日本大学生物資源科学部)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)		
2014 年度予算	85,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<p>1. 野生動物の個体群数とその移動・生息範囲の視点からの土地利用計画（ゾーニング）の必要性 2. 従来の対処型鳥獣被害対策から農村計画におけるマスタープランへの位置付け、マネジメント手法の必要</p> <p>以上、委員会活動のなかで抽出した。</p>
委員会活動の問題点・課題	1. 個々の委員が実施するフィールド調査成果の情報交換ができていない。